



# ソ連見本市を見て

## ソビエトの地下資源とその調査研究

←

☆ 会場内部正面の宇宙研究展示場とレーニンの大肖像  
 スプートニクからヴォストークにいたる模型とガガーリンやチトフの写真がみえる

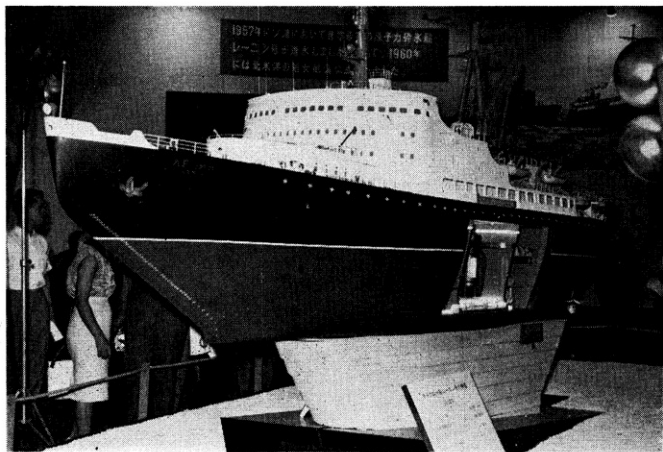
去る8月15日から9月4日まで 東京の晴海ふ頭で開催されたソ連商工業見本市には スプートニクからヴォストークにおよぶ宇宙開発や原子力砕氷船レーニン号の模型 あるいは各種産業機械・製品とともに ソ連の鉱物資源やソ連の地質学者の研究の結果を物語る出品物が展示されていたとくに「科学」の部に「地質学・火山学・海洋学」と名づけられた小間が設けられていたことはこれらの部門の研究成果が ソビエト社会の発展に大きく寄与しており 高く評価されていることを示すものとして注目された



←

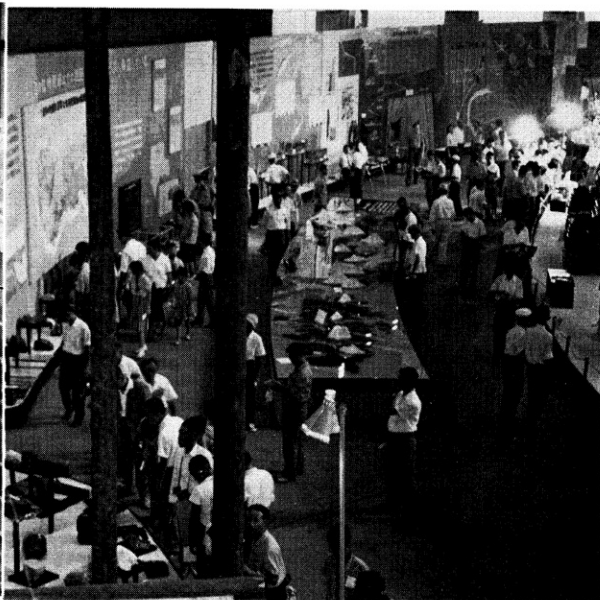
☆ 国際色豊かな東京晴海ふ頭のソ連商工業見本市会場入口付近

☆ 会場の人気をさらった展示品の1つソ連の原子力砕氷船レーニン号の模型





☆ 重工業部門の展示



☆ 地質学・海洋学・火山学関係の展示

→

☆ 展示標本の1部  
 上右……ウオルフラム鉱(シベリア)  
 上左……砒素鉱(シベリア)  
 下右……含ニッケル・銅・磁硫鉄鉱  
 (ヨーロッパ地域)  
 下左……方鉛鉱(コーカサス産)

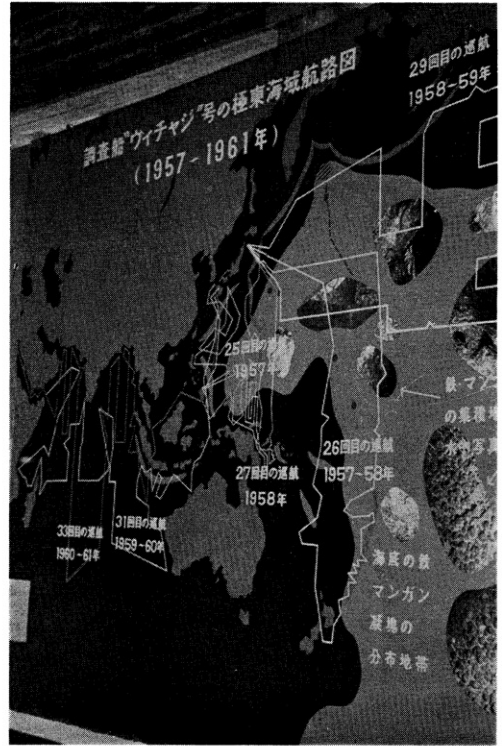
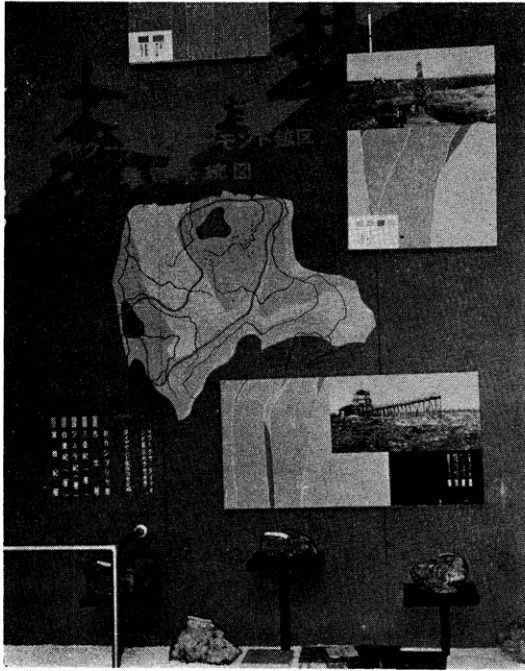
そのほか酸化銅鉱・亜鉛-銅鉱・モリブデン  
 鉱・磁赤鉄鉱・クロム鉄鉱・緑柱石・モリブ  
 デン-銅鉱・鉛-亜鉛鉱・方鉛鉱・マンガン  
 鉱・黄銅鉱・ボーキサイト鉱・カリ塩・チタン  
 磁鉄鉱・石棉・リチウム鉱・キンバレー岩・  
 マグネシウム鉱・その他多数が展示してある



←

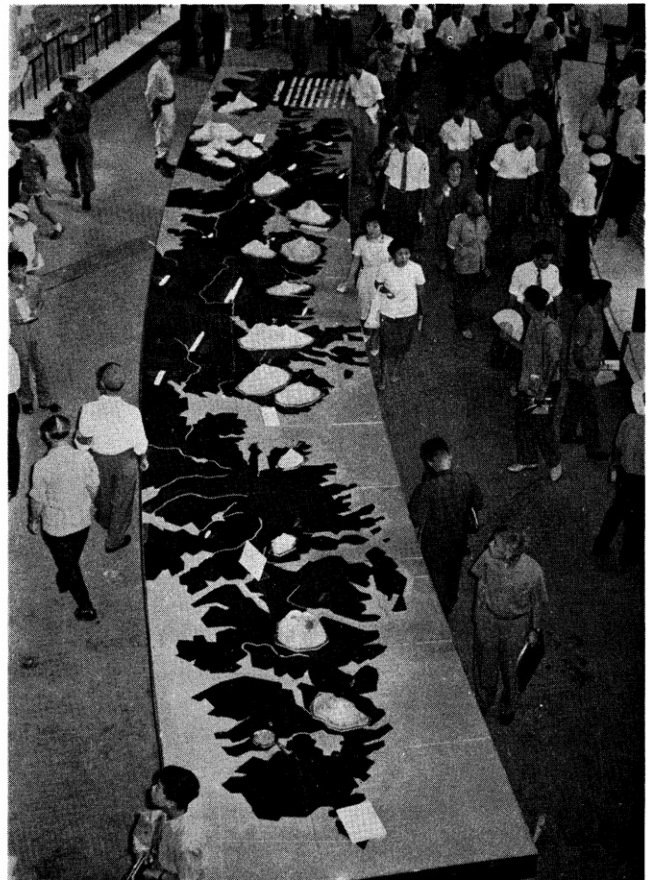
☆「地質学」の小間では大きな「ソ連邦の地質図と重要な有用埋蔵物の配置図」を掲げてその前に各一抱えもあるほどの40種におよぶ各種鉱石標本が陳列してありまさに「ソ連の鉱物資源はその国民の経済をじゅうぶん保証している」ことを示している。

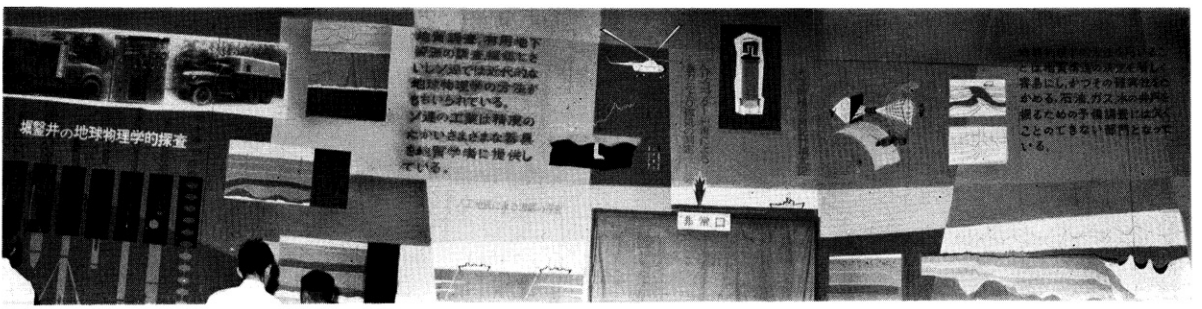
☆「海洋学」の小間には 海洋調査船「ウイチャジ」号 →  
 の極東海域航路図を掲げて 同号の1957—61年にわたる  
 33回の航路を示すとともに 調査の結果判明した海底の  
 鉄・マンガン凝塊の分布地帯を图示してある また 日本  
 海域の海底構造図なども示しており 海底資源・海洋  
 科学に対する ソ連の関心はかなり高いことがわかる



↑  
 ☆ 最近話題になったヤクーチヤ ダイヤモンド 鉱区の地質図と断面  
 模式図を掲げて 「近年ヤクーチヤでは キンパレー型に属するダイ  
 アモンドの初生鉱床が発見された 同地方ではすでに100以上のキン  
 パレー岩の鉱筒が見出され その中には ダイアの含有量において世  
 界最高級の 「平和」 「幸福」という名の鉱筒もある」と説明  
 している

→  
 ☆ 「火山学」の小間では 「カムチャッカの活火山」 の模型が展  
 示されていた ソ連には数100の火山があり そのうち活火山は57  
 である (カムチャッカ28 千島列島39) 火山研究の目的は 火山  
 作用(火山の蒸気を含む)と関連のある有用埋蔵物の抽出 地球の深  
 部の科学的認識最後に噴火の予知である 指導機関は カムチャッ  
 カにパウジュッコエおよびクリュチェフスキー火山学ステーションを  
 もつソ連邦科学アカデミー火山学研究所である ガラスを削って作  
 られた 火山島の模型は 氷海に浮ぶさまを表わして涼味を感じさせ  
 る活火山を示すために 下から赤色ライトを点滅させる工夫もおもしろ  
 い

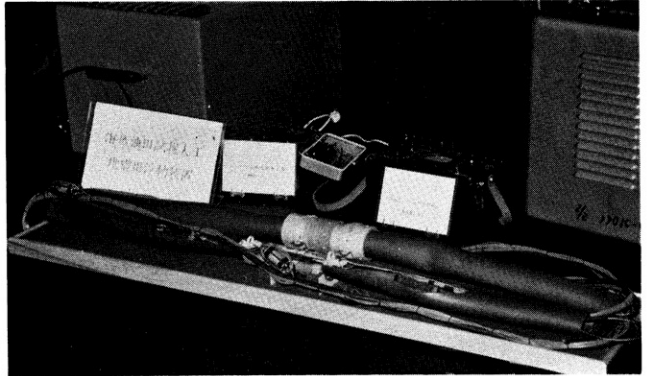




↑ ☆ 「地質学」の小間では 各種の物理探査の状況を写真で示して地球物理学的方法を用いることは 地質構造の決定を著しく容易にしかつ その研究法をたかめるので 石油・ガス・水の井戸を掘るための予備調査には欠くことのできない部門となっていること 地質調査・有用地下資源の調査探鉱に際し ソ連では近代的な地球物理学の方法が用いられていることを説明し さらに ソ連の工業は精度の高いさまざまな器具を地質学者に提供していると述べている



☆ 展示された物理探査機械器具の1部 海底油 → 田試掘人工地震用諸装置



← ☆ 重工業関係の展示場では 無騒音杭打機や採炭機・試錐機とともに大きなエネルギー資源分布図と各種の石炭・石油の標本を展示し シベリア地方には ソ連の燃料資源の76%が分布すること 石油産業で主要な地位を占めたのは 最も生産的なタービン方式の掘さく作業であることなどが説明されている

左下にみえる大きな機械はパイブレーション杭打機

	1913年	1960年	1965年(計画)
石 炭	29	513	600~612
鉄 鉱 石	9	107	150~160
石 油	9	148	240 (生産量単位 100万トン)

これらを通覧して感ずることは

ソ連の国土は广大で 地下資源に恵まれていることそして ソ連における地球科学の目的は これらの地下資源を ソ連国民の経済を豊かにするために開発することを第1とし ついで科学的認識を深めることを第2としている。 ソ連において「地質省」が設けられ「地質」部門が高く評価されている理由は ここにあるのであろう。

国土が狭く地下資源に乏しいわが国においては なおさら あらゆる地下資源を徹底的に利用し 新しい利用の途を開拓して 新しい地下資源を開発しなければならないと考える。 「地質」部門に対する認識におい

て ソ連におけるそれと わが国におけるそれとの間に格段の差があることを強く印象づけられた。

海底資源についてもまた同様のことがいえよう 四角を海に囲まれた日本が 海底資源の調査開発においてソ連におくれをとることは誠に残念である。 日本海海底地質および地質構造図は当然日本人の手で作られなければならない。

ソ連見本市を機会に わが国における「地質」部門についての認識が高まって 地下資源・海底資源の開発と地球科学諸部門の調査研究をより一層推進するためにしかるべき諸処置が早急にとられることを切望する次第である。 (写真はいずみ義徳技官撮影 文責は服部富雄技官)